『神興東歴史の旅　第５弾』

久末に伝わる伝統行事

久末区　　的場文彦

久末に伝わる伝統行事の中で、特色のあるものをご紹介します。

【川祭り】

５月に開催します。ダム下の久末川の畔に竹で編んだ祭壇を設置し、大雨、洪水防止、また長期の日照りがないよう、大森宮に祝詞を上げてもらいます。祭壇には、旬の野菜５品や鯛、塩、清酒を供えています。

《道切祭　神主さんの御祓い》

【道切祭（みちきりさい）】

６月に開催します。久末に入る街路の集落入り口７か所に立て札を設置し、悪霊が入らないようにし、集落の安全と清浄を保つようにします。札は、大森宮の神主さんに拝んでもらい、立て札は竹の上部をくりぬいて札を入れ、竹先には、藁の坊主をつけ、札の保全を図ります。

【大念仏（だいねんぶつ）】

８月１日に開催します。まだ夜が明けきれない朝５時に、区内の小学生が公民館に集合します。大数珠を手に持ち、大太鼓を一輪車で運びます。公民館をスタート、区内の全家庭、神興神社を回ります。各家の庭で、太鼓に合わせて「ナーマイダンボ、ナーマイダーブツ、ナーマイダ」と唱えながら、手に持った大数珠を３～５回、廻します。

最後は「ヨーマイタ、ヨーマイタ」で終了です。

各家庭では、数珠の中に、盆栽や食べ物等を置いています。元は農家にとって大切な牛が病気にならないよう、秣（まぐさ）などが置かれていました。

《降雨で全家庭廻りは中止。久末公民館で、
太鼓に合わせて大数珠を廻す風景》

２時間近くかかりますが、子どもたちには、お昼にカレーなどの食事がまっています。

久末出身の方は、大念仏の話をすると、懐かしそうに遠くを見る目で、昔の子供の時の経験を語りあいます。（毎朝５時に集合し、昔は７日間、筆者の子ども時代は３日間、現在は１日開催です。）

数珠の大きさは、大数珠（男用）径約1.5m、（女用）径約1.2mの２本です。

その他に、**・盆踊り・若八幡の秋の祭り・元旦の拝賀式**などがあり、また疫病退散の狛犬も見守ってくれています。それぞれ、終了後には公民館で直会（なおらい）があり、区民の懇親の場となっています。